

		EZ-WIN総合評価シート				23.10.22 (日) 京都11R G1菊花賞 芝3000m外A 3歳馬齢 15:40																
間隔	総合評価点数	予想印	枠番	馬番	馬名	性別	負担重量	予想人気	相対指数	血統評価	最終調教評価	馬喰調教評価	脚質前走	脚質2前	脚質3前	血統・人気複率	血統複勝回収値	前距離複率	騎手	調教師	前走不利	前走評価
9	31	▲	1	1	栗)トップナイフ	牡3	57	9	C	注			5,5	16,2	16,2	0	53	0	横山典	昆貢		B
5	17		1	2	美)ウインオーディン	牡3	57	15		C			12,4	13,2	13,8	6	69	0	三浦皇	鹿戸		
4	16		2	3	美)シーズンリッチ	牡3	57	17		B			2,11	3,13	6,3	0	0	0	角田大	久保田		
9	30		2	4	栗)ダノントルネード	牡3	57	16					6,9	2,4	8,1	3	369	0	西村淳	中内田	展	
11	18		3	5	美)バクスオトマニカ	牡3	57	14					13,15	1,16	1,2	0	0	0	田辺裕	久保田	展	
9	39	△	3	6	栗)リビアグラス	牡3	57	13		C	C+		1,4	1,6	1,8	14	278	0	坂井瑠	矢作芳	展	B
21	52		4	7	美)タスティエーラ	牡3	57	2	A	C		A	5,9	6,5	4,4	0	0	25	J.モ	堀		
4	45	★	4	8	栗)サヴォーナ	牡3	57	8	C	B	B	A	3,5	1,2	6,9	12	98	0	池添謙	中竹和		B
7	52	注	5	9	美)ノッキングポイント	牡3	57	10	A	C			6,3	6,6	6,1	9	78	0	北村宏	木村		A
4	34		5	10	栗)マイネルラウレア	牡3	57	7			▲		8,5	5,1	16,9	16	124	0	岩田望	宮		
4	65	○	6	11	栗)サトノグランツ	牡3	57	3	C	A	C+	A	7,2	14,2	5,2	17	88	25	川田将	友道康		A
4	46		6	12	美)ハーツコンチェルト	牡3	57	4	A				8,4	15,6	11,1	31	116	25	松山弘	武井	WT	
4	25		7	13	美)ナイトインロンドン	牡3	57	11	C				4,12	11,1	3,1	0	0	0	和田竜	大竹	R	
5	59	△	7	14	美)ソールオリェンス	牡3	57	1	A	B			10,2	6,5	15,1	100	120	0	横山武	手塚		A
4	13		8	15	栗)ファントムシーフ	牡3	57	6					1,8	12,9	11,2	11	68	0	武豊	西村		
4	27		8	16	栗)ショウナンバシット	牡3	57	12		C			10,3	17,14	13,6	0	0	0	M.デ	須貝	展	
9	59	◎	8	17	美)ドゥレッツァ	牡3	57	5	B	A		A	8,1	3,1	4,1	30	74	25	C.ル	尾関	R	B

新装京都外回りコースの枠順に関して、  
金曜の夜に気づいた重大な事がございますので、  
ここでお詫びと共に傾向の修正をさせて頂きとうございます(\*\_\*)

従来、8枠が圧倒的な不利枠となっておりましたが、  
馬場改修工事の折に「唯一の変更箇所」として  
4コーナーのコーナー角度が緩やかになった事で、  
8枠が最も有利な枠に生まれ変わっておりました。

以下は、芝2200m以上の外回りコースにおける  
枠順別の成績一覧になります。

新装京都外回りコース枠順別成績(2200m以上)						
枠番	着別度数	勝率	連対率	複勝率	単回値	複回値
1枠	2-0-1-13/16	12.5%	12.5%	18.8%	36	30
2枠	1-2-3-11/17	5.9%	17.6%	35.3%	39	62
3枠	1-2-3-12/18	5.6%	16.7%	33.3%	38	84
4枠	0-2-1-17/20	0.0%	10.0%	15.0%	0	32
5枠	4-2-1-15/22	18.2%	27.3%	31.8%	89	50
6枠	0-3-1-18/22	0.0%	13.6%	18.2%	0	30
7枠	2-2-1-19/24	8.3%	16.7%	20.8%	41	27
8枠	5-2-4-14/25	20.0%	28.0%	44.0%	104	106

世間の競馬ファンが、一昨日までの拙者のように  
「8枠はあかんで」  
とか思っておられるのか、回収率が単複ともに100%を超えております。

そして、今も昔も変わらないのは、  
京都外回りコース(特に上級条件)では  
末脚の要求度が非常に高いという事でございます。

菊花賞の詳細な好走傾向につきましては、  
「G1菊花賞 過去データと全頭診断」をご参照ください(\*\_\*)

今年は珍しくダービーの1着から3着馬が揃い踏み致しました。

そのダービーですが、時計的な価値が低いのみならず、  
上り3位以内の末脚を使った馬が、1頭も馬券に絡めないと言う  
特殊なレースとなっております。

そこで思うのは・・・  
この3頭は、あんまり強くないのでは・・・？  
(あくまでも希望的な個人的感想です)

つまり、秋になって成長してきた馬の方が  
彼ら3頭よりも強いんじゃないですかい？  
と拙者は思ったがっているのをごさいます。

具体的に言えば・・・

メンバー上位の末脚で、

- ・トライアルでダービー好走馬を一蹴した馬
- ・古馬を打ち破って菊の舞台にたどり着けた馬

これらの馬の方が、能力的に春のクラシック活躍馬を  
上回っている可能性が高いハズ・・・と。

さて、そのような訳で・・・

8枠に入った強烈な末脚の持ち主を本命に致します。

◎【17番ドゥレッツァ】

父ドゥラメンテと、豪州牝系の母との配合馬。

この配合は、先週の秋華賞で史上7頭目の  
3冠牝馬に輝いたリバティア일랜드と同じですな。

ちなみに母のモアザンセイグリットは豪州のオークス馬で、

豪州の天皇賞春にあたるG1オークランドカップの3着馬。

戦ってきた相手に、特別凄い馬がいた訳ではありませんが、  
前走の3勝クラスでは、先行有利な馬場と展開の中、  
鞍上の戸崎Jが「可哀想な競馬になって馬に申し訳ない」  
と言う程に絶望的なポジションから上り最速勝ち。

2走前は、逃げ馬が楽なペースで行き、  
4角では6馬身以上離された3番手追走で、  
「あー、これは前が止まらんやろなあ」  
と思っていたら、上り32秒7と言う  
とんでもない末脚であっさりと差し切り勝ち。

とにかく、デビュー戦を除く  
4連勝は全て上り最速勝ちの実績馬。

決して追込み一辺倒の馬ではなく、  
好位～中団で競馬をしての実績でございますから、  
振りを受けにくい外枠に入った事はむしろ天恵。

勝ち負けになると見込んでおります。

○【11番サトノグランツ】

父は菊花賞馬ディープ系サトノダイヤモンド。

母父は欧ダンチヒ系デインヒル

祖母父は欧ニジンスキー系エルナンド(凱旋門2着/JC3着馬:上り最速)

母の半妹シーオブクラスは英・愛オークス馬で

凱旋門賞の2着馬でもあります。

父も母系も、スタミナと末脚の両方を要求されるレースに強く、菊花賞には非常に高い適性を持っていると考えられます。

ただ、最大の武器のひとつであるスタミナに関しては、キャリアを重ねる事でしか完成しない為に、春のクラシックには間に合わず、陣営も主戦の川田Jも、早い時期から「秋からの馬」と割り切って育成していたようでございますな。

既に「新装京都外回り」の重賞を勝っており、前走のレコード駆けの反動が無ければ勝ち負けになるのではないかと考えております。

★【8番サヴォーナ】

ディープ系キズナは、新装京都外回りコースの上位種牡馬。

母父は豪州ダンチヒ系スニツツェル(スプリント血統)

祖母父の欧フェアウェイ系ロードアトウオーは、  
米国のダ2000mG1馬でございますが、  
産駒はスプリンターに出る傾向がございますな。

ただし本馬は、血統の青写真とは真逆の適性を持った突然変異で、  
母系の短距離適性が、直線のトップスピード強化に作用し、  
父キズナの距離適性を受け継いだものと考えられます。

前走は高速馬場の神戸新聞杯で、先行して上り5位2着(レコードタイムタイ)  
2走前は、時計の掛かる良馬場の福島2600m(2勝クラス)で  
逃げて上り2位の末脚を使い圧勝しております。

キャリア10戦中8戦で上り3位以内をマークしており、  
馬場の軽重を問わないのは大いなる武器と申せましょう。

#### ▲【1番トップナイフ】

父は欧州ダンチヒ系のデクラレーションオブウオーで  
距離に不安を感じさせる血統ですが・・・

半兄のステラウインドは3000mの万葉Sを勝っており、  
牝系ファミリーからは菊花賞2着他、中長距離G1を7勝した  
テイエムオペラオーが出ております。

また、本馬の配合には、凱旋門賞馬を出したブラッシンググループの4×4クロスが発生しており、祖母の父バンブーアトラス(欧リボー系)はダービー馬でございます。

血統イメージよりもはるかに長い所に向く配合馬であり、かりにもG1で2着の実績を持つ馬。

対戦してきた相手も骨っぼいメンバーであり、前走では、ダノンベルーガ、ヒシイグアス、ジャックドールと、古馬の一線級に先着しての2着。

陣営が強く望んだ1枠1番に入った強運を活かし、「狂気の血リボー」持ちらしい激走を見せてくれるかもしれません。

#### 注【9番ノッキングポイント】

父モーリス(欧ロベルト系)は、新装京都外回りコースの上位種牡馬。

母チェッキーノ(父キングカメハメハ)はオークス2着馬。牝系ファミリーからは2500m以上の重賞活躍馬が複数出ており、モーリス産駒の本馬でも、距離の心配は無用かと存じます。



欧州指向が強い配合馬なので、時計が速すぎる高速馬場よりも標準的な時計の馬場でパフォーマンスが上がるタイプですな。つまり、今の京都芝は最適と考えられます。

前走は古馬混合重賞を先行して上り3位で完勝。2走前のダービーは、馬場が軽くて切れ負けしましたが、15人気で0秒2差の5着なら、能力は高いと考えられましょう。

#### △【14番ソールオリエンス】

父は菊花賞馬キタサンブラック。  
母父は菊花賞馬タイトルホルダーの母父と同じ  
欧サドラーズ系モチベーターでございますな。  
祖母も凱旋門賞血統で、距離が延びる程パフォーマンスが上がりそうな配合馬だと考えられます。

また、皐月賞馬は菊花賞に好相性であり、関東馬という事以外に強い割引材料は見出せません。

#### △【6番リビアングラス】

ディープ系キズナは、新装京都外回りコースの上位種牡馬。  
母系が米国牝系なので、軽い馬場になった方が良さそうですが、

前走で古馬が相手の2勝クラス阿賀野川特別(2200)を  
逃げて上り4位で完勝している事は評価すべきだと思います。

**【馬券】**

EZ-WIN 推奨馬券

馬連3頭ボックス 11番・14番・17番

3連複5頭ボックス 7番・9番・11番・14番・17番

くまもん馬券

馬連 11-17

ワイド 11-17

3連複1頭軸流し15点

17-1・6・8・9・11・14